

令和 2 年

第 11 回 教育委員会 定例会

議 事 録

佐 渡 市 教 育 委 員 会

令和2年 第11回 **定例**・臨時委員会 議事録

委 員 会 日 程		会 場
開会日時	令和2年8月26日 午前 後 3時00分	佐渡島開発総合センター 2階 第3会議室
閉会日時	令和2年8月26日 午前 後 4時24分	
延会日時	平成 年 月 日 午前・後 時 分	
出席者	欠席委員	会議録署名委員
教育長 渡邊 尚人		仲川 正道
1番委員 仲川 正道		池 典比古
	2番委員 中村 友子	
3番委員 信田 恵子		
4番委員 池 典比古		
説 明 の た め 出 席 し た 職 員		
教育総務課 課長 坂田 和三 課長補佐 高野 久之 総務係長 飯田 誠	社会教育課 課長 市橋 秀紀	
学校教育課 課長 濱田 晴明 管理主事 森 和人	子ども若者課 課長 大屋 広幸 課長補佐 本田 寿之	
傍 聴 人	有 無	
報 告 の 要 旨	「議事の概要」のとおり	

会議で行った選挙の結果
なし

会議に付議した事件の題目

議案第 57 号 佐渡市教育委員会職員の分限処分に係る専決処理について

- 報告事項
- 1 学校情報について
 - 2 相川地区認定こども園整備の進捗状況について
 - 3 学校教育環境整備に関する保護者アンケートについて
 - 4 その他

協議事項 1 佐渡市教育大綱及び佐渡市教育振興基本計画の策定について

次回会議開催日

採決の結果及び可否の数を計算したときは、その数

なし

請願、陳情

有・**無**

有の場合、別紙のとおり

その他必要と認めた事項

特になし

【議事の概要】

<p>・ 渡邊教育長</p> <p>・ 委員全員</p> <p>・ 渡邊教育長</p> <p>・ 渡邊教育長</p> <p>・ 大屋子ども 若者課長</p>	<p>◎本定例教育委員会は、午後3時00分から開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ただ今から令和2年第11回佐渡市教育委員会定例会を開催いたします。 ・ 初めに、日程第1「議事録署名委員の指名について」ですが、本日の署名委員は佐渡市教育委員会会議規則第18条の規定により、仲川委員と池委員の2名を指名いたしますので、よろしく願いいたします。 ・ 次に、議案第57号及び報告事項1は、人事及び個人情報に関する内容が含まれていることから、佐渡市教育委員会会議規則第7条の規定により、秘密会としたいので、これに賛成の方は挙手をお願いいたします。 <p>・ 挙手</p> <p>・ よって、議案第57号及び報告事項1は、秘密会とすることといたします。</p> <p>【秘密会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議案第57号「佐渡市教育委員会職員の分限処分に係る専決処理について」、坂田教育総務課長から説明する。 <p>【以上の議案については、質疑を経て原案どおり承認された。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告事項1「学校情報について」、森管理主事から説明する。 <p>【以上の報告については、質疑を経て終了する。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告事項2「相川地区認定こども園整備の進捗状況について」、事務局の説明を求めます。 <p>【説明要旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年4月開催の教育委員会定例会報告後の進捗状況について、園舎建設工事の実施設計業務委託予算が6月議会で承認され、園舎建設工事の基本設計業務委託を7月に完了しました。この基本設計を基に7月9日にあいかわ幼稚園、相川保育園の保護者向け説明会、7月21日に稲鯨保育園の保護者及び地域の方と統合についての意見交換会を開催しました。 ・ 相川地区認定こども園の整備は、あいかわ幼稚園、相川保育園、稲鯨保育園の3園統合で進めてきましたが、統合への了解をいただけない稲鯨保育園の意向を確認しなければ実施設計の内容が確定しないため、意見交換会における説明内容について検討を行いました。 ・ 稲鯨保育園の相川地区認定こども園への統合は、内部協議において一旦保留とする方針を決定し、当面存続するというので、7月21日の意見交換会で説明しました。主な理由は、直近の数年において、30人程度の園児数を保ち大幅な減少傾向がなく、十分な保育が提供され、子どもたちも楽しく過ごしていること。また、意見交換会では地域で子どもたちを育てるという決意が強く、地域の活力につながっていると聞いています。これらの様々な点を考慮して、稲鯨保育園の統合は一旦保留する方針を決定しました。 ・ このことから、相川地区認定こども園は、当初の定員90人から60人に変更し、定員減に伴う保育室、遊戯室など必要面積の設計見直しを進めてい
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡邊教育長 ・ 仲川委員 	<p>ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ただ今の説明に対し質問、ご意見ありましたらお願いします。 ・ 大変残念だと思います。統合はタイミングがありますので、このタイミングを逃すと、保育園が極めて小規模になってしまう時期を待つ、という決定と同じと考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大屋子ども若者課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数的なことを聞きたいのですが、稲鯨地区における就学前ゼロ歳児から5歳児の人数は、どのくらいでしょうか。 ・ 平成30年度は26人です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今現在のゼロ歳児から5歳児までの、それぞれの年齢層を教えてください。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大屋子ども若者課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゼロ歳児は1名、1歳児は5名、2歳児は7名、3歳児は3名、4歳児は6名、5歳児は6名です。合計で令和2年度は28名です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲川委員 ・ 大屋子ども若者課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ このうち保育園に通っているのは何人ですか。 ・ 今申し上げた数字が稲鯨保育園の園児数です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園に通っていない者もいると考えた方が良くないかと思いますが、どうでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本田子ども若者課長補佐 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園児数は、90%を超えていますので、ほとんどの方が入っているということで良いかと思うのですが、実際の数は今把握できていません。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲川委員 ・ 本田子ども若者課長補佐 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゼロ歳、1歳児も通っていると考えていますか。 ・ そうです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ つまり乳児保育からやっているということですね。 ・ そうです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本田子ども若者課長補佐 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者として今後の見通しについては、稲鯨地区の人口、特に20代、30代の人口構成から考えて、今後も園児数が維持できるという視点があるのか。保留の決定は、今あまり問題化しないという意味では簡単だと思いますが、今後の見通しについても合わせて考えなければいけない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本田子ども若者課長補佐 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここ3年間は30人前後でずっと推移しています。この後、ゼロ歳という部分については、まだ生まれてくる数において、はっきりしたものがない状況です。園児数が年代ごとにそれぞれ平均していくところですので、急激な落ち込みは今のところないと考えております。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後のことですので、しかも高校や中学校と違って、先が読みにくいところがあるかもしれません。しかし佐渡全体の傾向としては、出生数が300人を下回り、これから増えていくという見込みがない。若者人口、特に20代の人口構成等をよく考え、ある程度見通しを立てて地域で説明しないといけない。私は30人程度をここ3年間保っているから認めざるを得ないという方向は、若干詰めが甘いという気がします。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 大屋子ども 若者課長 ・ 仲川委員 ・ 渡邊教育長 ・ 委員全員 ・ 渡邊教育長 ・ 坂田教育総 務課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合保留の主な理由 2 番目の「十分な保育の提供ができていない」ことについては、現在の保育士はとても努力していて、この評価が出ていると私は考えていますし、3 番目の「地元の熱意」についても、本当によく頑張っていると思います。しかしこれはどの地区でも、あるいはどの保育園でもやっています。だから、これは統合保留の理由にはならない。1 番が最大の理由であり、今後の見通しとして、これからも相当維持できるということがなければ、理由としては弱いと考えます。 ・ 先ほども言いましたが、統合にはタイミングがあります。今新しいこども園を造ろうというときに、少し規模の大きなものを造って、稲鯨地区の意見も入れながら一緒にやっという方向を目指すのが良い。また、今後の佐渡市の財政状況も考え合わせた上で、統合を進めていただきたいと思っています。 ・ もう一点言わせていただきますと、必ず統合の賛成者がいるはずですが。その意見が一つも聞けていないのは残念です。 ・ 地域における説明会において、今回の方針転換について異論を唱える方はいませんでした。その中で、統合賛成という意見の方は、7月21日の意見交換会の中にはいませんでした。 ・ 公開の意見交換の中で、反対の意見が強いときに、賛成を言うことはとても難しい。特に地域が狭ければ狭いほど言いにくい。ですから、例えば今日この後の協議題にあるのですが、「学校教育環境整備に関する保護者アンケート」のような形で忌憚のない意見を聞ける工夫が必要だった。 ・ 私は佐渡市の合併の際、これからの佐渡市の発展には小さな地元意識が消えて、より大きな地域という固まりができると良いと思っていました。集落は大事ですが、いつまでも集落に固まっているのではなくて、もう少しサイズを大きくして、周辺部も合わせて意思統一をして動ける、そういう佐渡市であってほしいし、最終的には大きな佐渡市という固まりをみんなが協力してつくれるようになってほしいと思っていました。ですから、何とか協力をして、集落の単位ではなくて、ある程度大きな固まりの中で保護者も子どもたちも交流ができるような方向性にもっていくのが大事であろうと考えています。 ・ 他に質疑はございますか。 ・ 発言なし ・ 質疑なしと認めます。 ・ 報告事項3「学校教育環境整備に関する保護者アンケートについて」、事務局の説明を求めます。 <p>【説明要旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育環境整備に関する保護者アンケートは、小中学校の児童生徒の保護者、保育園・幼稚園の園児の保護者を対象として、9月2日からアンケートを配布して、9月14日までに回収し、集計を予定しています。 ・ 本日の報告後、8月27日に議会総務文教常任委員会、28日は議員全員協
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡邊教育長 ・ 池委員 ・ 坂田教育総務課長 ・ 池委員 ・ 渡邊教育長 ・ 池委員 ・ 仲川委員 ・ 坂田教育総務課長 ・ 仲川委員 ・ 坂田教育総務課長 ・ 池委員 	<p>議会がありますので、新たな学校再編計画の取組状況と併せて、アンケートの実施について説明したいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ただ今の説明に対して質問、ご意見ありましたらお願いします。 ・ 先ほどの保育園の統合のこともありますが、保護者アンケートの結果を理解したうえで賛成がいると分かれば、それだけ全体に教育委員会側から話がし易いので良いのではないかと思います。 ・ 以前に統合計画が出たときに、今回と同じようにアンケートは実施されていますか。 ・ 実施について確認していません。 ・ 前がどんなものだったのかと興味があると思うのですが。 ・ 私の記憶では、個々の学校統合に入っていたときには、地域のアンケートを取っているのはありますが、今回のような全体に取るアンケートは取っていません。 ・ 保護者の意向がはっきりと出てくるので進めやすいと思います。アンケート結果が良く出ても、悪く出てもはっきりと方向性が見えるので良いかと思えます。 ・ 全体としては、大変良いものだと思います。 ・ 質問4の問いの文章ですが、「記入ください」とあります。そこまでは全部「ご記入ください」ですが、「ください」は尊敬語ではあるが、命令的な感じもありますので、あまり丁寧ではない。その前には「ご」をつけるというのがふさわしい形だと思います。「ご記入ください」に統一してください。 ・ それから提出方法については、封筒に入れさせますか。 ・ 今のところ検討していません。 ・ 書きにくい人がいるかもしれないので、若干の配慮が要るかもしれない。検討してください。 ・ もう一点、質問2の選択肢の1番と2番です。1番、「学習環境面の変化について（学級人数の増加やいじめ・不登校など人間関係への影響）」と書いてあります。いじめ・不登校を出すことで、統合についてネガティブな印象を与えてしまう。2番、「学習指導面の変化について（きめ細やかな指導の減少など）」、これも統合するときめ細やかな指導ができないという先入観を植え付けることになりはしないか。1番については「いじめ・不登校など」という部分は削除、2番については「の減少」を削除した方が良い。 ・ 検討懇談会の参加者の皆様からいただいた意見がありますので、そちらのほうの整合も含めて反映させていただいて、問題なければ、ただ今の内容で進めさせていただきたいと思えます。 ・ 私が現職のときに、例えば国中辺りの4校を2校にする話がありましたが、校舎をどうするかが大きな課題だと思いました。例えば真野中、畑野中を一緒にする場合に、校舎の大きさからいって真野中だろうという噂も聞い
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡邊教育長 ・ 池委員 ・ 坂田教育総務課長 ・ 渡邊教育長 ・ 委員全員 ・ 渡邊教育長 ・ 濱田学校教 	<p>ていましたが、真野中も建築年数が古くなっており、そこに統合するとなると部屋数も足りない古いところでとなります。また、真野中はグラウンドとテニスコートがありません。スポーツハウスの施設であり、全く別物です。統合を進める上では、校舎や施設面も非常に大きいので、皆さんに説明する段階では、ある程度満足を得られるようにすることが大事だと思います。新穂中と金井中だったら金井中学校という話も聞いたのですが、施設の面の検証等を含め、地元の方に分かっていたく、十分な環境整備計画を準備することが重要だと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今統合で問題なのは交通手段でしょうか。スクールバスや路線バスを利用することで満足が得られないと理解を得るのが難しいので、あらかじめしっかりと計画を準備して説明していただくと良いと思います。人口推移を見ると、間違いなく統合しないといけなくなるので、そのためにも反対が出ないようにやるのが大事かと思います。 ・ 例えばこの学校だと5年後には何人になってしまうという資料があると、地元でも「これはだめだな」という納得も得られると思います。小規模校が増えてくると思うので、その資料等を準備していただいて、多面的に見ていただくと非常に良いと思います。自分が現職の頃は、統合したくないという気持ちもありましたが、これを見ると、統合しないとたないで、みんなが納得する部分を多角的に整備して話をすると、地元も納得するのではないのでしょうか。 ・ 我々としては、いきなり個々の学校の話からするのではなくて、全体の方向性を決めながら懇談会の方の大きな枠の形を求めていきたいと考えています。前回の資料は個々の学校を想定しながらやっていますし、例えば中学校を統合した場合に、教室が足りないか足りるかというところも考えています。その個々のところに入ってしまうと、今度は全体が見えなくなってしまうという恐れもありますので、順番として、まず教育委員会としてこういう方向に統合した方が良いという方向性をつけながら、ではこの地区では中学校どうしますか、小学校どうしますかという個々の部分に入っていきたいと考えています。 ・ これで良いと思いますので、その後、必要なことをしっかり押さえていただければと思います。 ・ 今はまだ明確に計画立てはしておりませんが、段階を見ながら一定の地域の中での座談会、意見交換会をやっていかなければならないと思っていますので、その中で今言われた細かい地区の学校の情報等々については、お示しをしてお話を進めさせていただきたいと思います。 ・ 他に質問ございますか。 ・ 発言なし ・ 質疑なしと認めます。 ・ 次に、4番「その他」について、事務局から。 <p>【説明要旨】</p>
---	---

<p>育課長</p> <p>・ 渡邊教育長</p> <p>・ 仲川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奨学金制度の改正について、8月4日に再度市長と話合いの機会を設け、市長と確認したことが6項目ありましたので、報告いたします。 ・ 1点目、佐渡市奨学金貸与条例から定住促進制度を切り離し、学校教育課では就学支援のみとし、新たな定住促進制度を地域振興課で創設することです。具体的には奨学金条例で規定している貸与満了期から10年の期間内に継続して5年間で佐渡市に住所があつて、かつ就労していることを条件とした奨学金の全額返還免除の制度を廃止するものです。 ・ 2点目、佐渡市の奨学金よりも優先的に国の日本学生支援機構の奨学金、県の奨学金等から給付または貸与を受けるよう促進します。ただ、成績要件等から国等から奨学金を受けられない場合のみ奨学金を受けられる権利を担保するために佐渡市奨学金制度を支援します。これにより、当初は佐渡市の奨学金貸与条例の廃止を考えていましたが、条例改正の方針となりました。 ・ 3点目、佐渡市奨学金貸与額の縮小です。今現行で最高額が月額10万8千円ですが、それを月額5万から6万程度にとすることを考えています。 ・ 4点目、誘致校奨学金は誘致するときの取り決めに従う必要があるため、協定書等内容を確認中ですが、その内容によって、誘致校奨学金制度を復活させる必要が出てくると考えています。 ・ 5点目、奨学金の利子補給制度を創設します。日本学生支援機構の利息付があります。佐渡市の奨学金は無利息ですので、第2種奨学金というのを学生が受ける場合、その利息を補給していくものです。 ・ 6点目、定住促進を充実させるために、佐渡市へU I ターンされた方や佐渡市以外の奨学金、その返済分の支援を地域振興課の方で新たに創設するものです。 ・ 今後のスケジュールですが、9月議会の総務文教常任委員会で途中経過を報告し、12月議会で改正の提案を考えています。随時、教育委員の皆様には報告いたします。 ・ ただ今の説明に質問ありましたらお願いします。 ・ 奨学金のことは、次回の総合教育会議でぜひ市長から説明をしていただきたい。私は、前回の奨学金条例改正については、大変不満をもっています。教育委員会会議の議決をほとんど考慮せずに、市長サイドで決めてしまった。議事録を読み返していただきたい。条例改正については、我々の審議を経ずに教育長が専決をした。その後委員会の議題に上りましたが、私は反対をしました。その後の規則改正については、全員で否決を2回もしました。否決されたにもかかわらず、市長サイドで通してしまった。この経緯について新市長はどう考えるのか、そして今なぜ奨学金制度の見直しを行うのか、市長の意見を伺いたいと思います。 ・ 前回の奨学金制度の改正に当たって、最終的には、どう意見を言っても取り上げていただけないという状況となった。結論として、改正の担当課は教育委員会ではない、だから教育委員会で議決することに意味はないという
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡邊教育長 	<p>ことになった。だが、事務執行は教育委員会にやはり戻ってきている。一旦教育委員会の議題にしておきながら大変問題のある進め方をしてきたと思う。結局、現在も教育委員会が補助執行という形で事務をしている。こういう手法で教育委員の意見を取り上げないというやり方はよくなかった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 条例等については、教育委員会の決議事項ですので、否決されたということはそれに従うということです。 ・ 改正された前回の提案は、教育委員会の提案事項ではありません。これは、市長部局の総務課が市長の意向を受けて議案に出した問題です。教育委員会は反対だという立場はずっと明確にしております。そのことだけは加えておきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡邊教育長 ・ 委員全員 ・ 渡邊教育長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前の条例提案と規則提案のときの記録を確認し、経緯を整理して次回ご報告いただきたい。 ・ 他にございますか。 ・ 発言なし ・ 日程第4、協議事項「佐渡市教育大綱及び佐渡市教育振興基本計画の策定について」、事務局の説明を求めます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 坂田教育総務課長 	<p>【説明要旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育大綱及び教育振興基本計画を一体的に改定するとして、令和元年度の公表に向けて準備を進めました。大綱及び基本計画は、整合を図るとされていた佐渡市の将来ビジョンの策定が遅れたことから、教育委員会の重点事項を3月末までに学校現場に周知するために、一旦暫定版という形で学校現場に配布しています。 ・ このたび市では将来ビジョンに代わる新しい市の最上位計画を策定することとなり、策定までに一定の期間が必要になることから、本大綱、計画を一部修正の上、公表したいと考えています。 ・ 本日の協議を踏まえて、8月28日予定の議員全員協議会で報告をさせていただきますと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡邊教育長 ・ 仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ただ今の説明で質問、ご意見ありましたらお願いします。 ・ 8ページの文言の削除について、「市内高等学校等と連携し」の「市内」を取る、それから、「留学生」の「生」を取る。このことで目的が分かりにくくなってきました。「高等学校等と連携し」というのは、具体的にどうということなのか。それから、留学生の「生」を取ることで、海外だけというイメージを払拭するということを言われた。当初の文言とは内容が変わってしまう。文言を替えることで、本来の意味と離れてしまうが、そういう修正は良いのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 坂田教育総務課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前段については、「市内」を外すことによって、市内に限らず県内外というところまで幅を持たせたい、交流の幅、連携の幅を広げたいというところがあります。 ・ それから、後段の「生」というところ、受入れもそうですし、その他の交流をする中で、「留学生」という言葉がどうしても海外からの受入れ留学

<p>・ 仲川委員</p>	<p>生という意味合いに取られるのではないかというところもあります。そこにとらわれない形であれば「留学」という表現の方が良いのではないかということです。大きく意味が変わるといってお話になりますと、そこが良いか悪いかというところも含めて、ご協議いただきたいと思います。</p> <p>・ 当初この文言をつくったときには、佐渡地区の高等学校等が連携して行っている海外交流をイメージした。例えば佐渡高校のヘイワード高校交流に他の高校も参加すること、更に東南アジア諸国との交流を始めたことも合わせてこの文言を入れた。</p> <p>・ それから、留学生についてもグローバル人材の育成との関連で、海外からの受入も考えようということでこの文章ができた。今課長の言われたことをやるのであれば、この場で了解が必要かと思います。つまり佐渡として、昔の羽茂自然学園のようなイメージをもって、国内留学に取り組む気があるのかということ。もう一つは、高等学校等の「市内」を取ったということは、県内外、国内外の教育機関等に枠を広げて考える必要はないのか。表現の変更で随分流れが変わってしまった。</p>
<p>・ 坂田教育総務課長</p>	<p>・ 「留学生」という表現について、そういうイメージが先行するという言い方をしましたが、決してその部分を排除する意味ではなくて、その部分を含めた意味合いで捉えていただければと思っています。</p> <p>・ 国内留学にしっかり取り組むのかということからは、この後少子化が進んで生徒児童の数が減っている中で急激に増えるのはなかなか難しいことから、佐渡で勉強したいという児童生徒たちにも、魅力あるところにして来てくれるよう取り組みながら子どもたちを増やしていくことも考えていかないといけないので、市長部局も含めてしっかり取り組みたいとしているところです。</p>
<p>・ 仲川委員</p> <p>・ 坂田教育総務課長</p>	<p>・ 何とも言えないが、突然の文言修正です。</p> <p>・ 基本的に本来の考えられた部分だということであれば、市内についても留学生という言葉はそのまま残す形にさせていただいて、国内の小中学生の留学については、郷土学習という活動が、これから実際にどこまでできるかということもありますので、この中で取り組む可能性があるという読み込みをしていただけると、そのままの形でも良いと思います。</p>
<p>・ 仲川委員</p>	<p>・ 課長の言った留学のイメージをある程度広げることは大事です。年間通して佐渡に籍を移してという固い考えではなくて、例えば夏休みだけの短期留学の受入れ課程をつくって、佐渡で一夏過ごすようなプランがあっても良いと思います。今後いろいろなことを発想できるように変えるのであれば良いと思います。</p>
<p>・ 渡邊教育長</p> <p>・ 坂田教育総務課長</p>	<p>・ 今課長から話があったように、施策 11 は元に戻すという形で理解をしていただきたいと思います。</p> <p>・ それから、小中学校の留学生の扱いについては、施策 6（1）キャリア教育の中にそれらしい文言を入れることでいかがでしょうか。</p> <p>・ キャリア教育については、このままだと読み取りにくいでしょうか。郷</p>

<p>務課長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡邊教育長 ・ 仲川委員 ・ 坂田教育総務課長 ・ 渡邊教育長 ・ 坂田教育総務課長 ・ 渡邊教育長 ・ 渡邊教育長 	<p>土学習を推進するということに「国内留学」を一言加えた方がよろしいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい項目を立てるのではなく、県内外からの留学生の受け入れを併せて行うなどとしたらどうか。 ・ 郷土学習の推進は「推進」で言い切った方が明確化されると思います。 ・ その中で、国内留学の実施・読み取りができるということであれば、このままでよろしいですか。 ・ 何も変えないということで、その中で読み取ってもらうことで、それで理解してもらえるのであれば良いと思います。 ・ キャリア教育の中で国内からの留学に取り組んでいくという可能性を盛り込んだ形でご理解いただければと思います。 ・ 文言は入れないことにさせていただきます。 ・ 日程第5、次回の会議の開催日について、事務局の説明を求めます。 【次回の会議は、9月30日（水）に定例会を開催したい旨を説明した。】 ・ 以上で令和2年第11回佐渡市教育委員会定例会を閉会いたします。 <p style="text-align: right;">午後4時24分終了</p>
---	--